



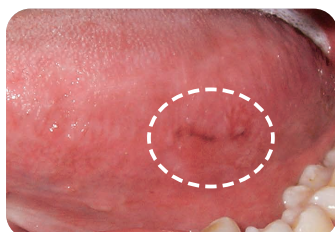
粘膜の異常が見つかったとき 受けていただきたい 検査とは？

粘膜の病気には、
口腔がん治療のプロが診ても
口腔がんともぎらわしいものがじつは多いのです。
良性かどうかを鑑別するには、粘膜の病理検査が必須です！

良性？
それとも悪性？

見た目で判断はできません！

口腔がん



黒っぽい色素沈着に見えますが、実際は早期の舌がんでした。



良性の白板症に囲まれた、赤くなっているところだけががん化していました。

こちらは良性。だけど 将来のがん化に要注意！



現在は良性ですが、がん化しやすい紅板症です。定期的に細胞診検査を受けましょう。



現在は良性。しかし紅板白板症になっています。定期的に細胞診検査を受けましょう。

良性かどうかを調べる病理検査って？

病理検査 1

簡易的な
がん検査

細胞診検査

(液状化検体細胞診)



歯間ブラシ(あるいは専用のブラシ状器具)で粘膜を擦って細胞を採取します。



専用の固定液に保存した細胞(検体)を専門のラボに送付します。

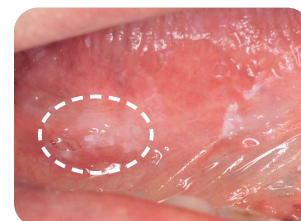


顕微鏡で子細に観察し、がん化した細胞がないかを調べます。

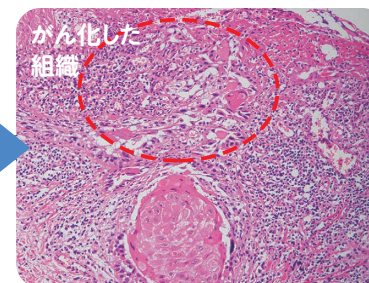
病理検査 2

確定的な
診断のために

組織診検査



粘膜の変化が進行している箇所を切除します。



切除した部分を顕微鏡で子細に観察し、がん化した組織がないかを調べます。

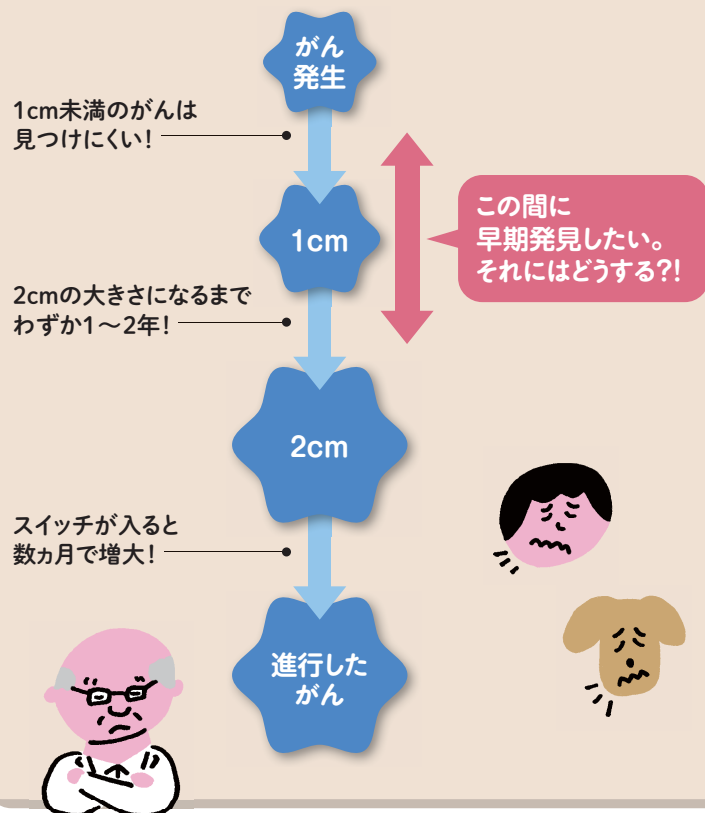


かかりつけの歯科で 粘膜のチェックも受けましょう。

歯とお口の粘膜の健康を守るため、そして口腔がんの
早期発見のために、ふだんから定期的に歯科を受診しましょう！



口腔がんを 早期発見できる期間は意外と短い！



歯科への定期受診が早期発見への早道です！

